

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	飯田 佐恵
主な担当科目	ピアノ指導法応用Ⅲ,ピアノ指導法応用Ⅳ,音楽教育メソッドⅠ,音楽教育メソッドⅡ,基本ソルフェージュ②_A,鍵盤演奏表現Ⅰ_J,総合ソルフェージュ①_A,卒業研究_ピアノ指導者、ピアノ音楽、電子オルガン特別講義,電子楽器研究,ピアノ実技
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	全学生配付3年目となるiPadの利用を促進し、ICT活用についてさらに工夫を重ねたい。留学生や要配慮の学生など、多様な学生に有意義な学修機会を提供できるよう心がけたい。研究によって得られた音楽教育メソッドの知見を、授業の場で学生たちに還元したい。
2024年の教育に関する自己評価	グループワークを推進する一方で多様な学生に配慮している。TeamsやUNIPAでの課題提示・提出の推進、資料配付を促進し、授業内でも教育効果を実感している。メディア授業である「卒業研究」電子教科書使用の「総合ソルフェージュ①」以外でも、ICT環境に対応した授業を展開している。留学生や要配慮学生には平易な言葉遣いを心がけ、欠席がちな学生にも丁寧に対応している。ソルフェージュの授業においては、コダーイやオルフの音楽教育研究から得た知識や方法を取り入れて効果が見られた。
2024年のFD活動に関する自己評価	FD全体研修会のほか、関係する部会、分科会のFD研修会に全て出席し、積極的に発言できた。
授業改善のために取り入れた研修内容	9月の全体FDで二俣泉学部長から「自分と相手が違うという前提からの出発」「自分が相手を知ろうとする」ことから「学生を理解」し、「学生にしてほしいことを具体的に詳細に徹底的に伝える」「繰り返し、やさしい日本語でスライドも併用する」といった教員が取るべき行動について具体的にご講話いただいた。「学生への動機づけ(授業を学ぶ意義)」「教員の自己開示」といったことから、「教員が適切なコミュニケーション能力を見せる」という考えは、当然でありつつ新鮮であり、その後の分科会の具体例を含めて、授業で心掛けている。

2024 年度(前期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:673 教員名:飯田 佐恵

1)アンケート結果に対する所見

概ね良い結果をいただき、有り難く思う。特に「電子楽器研究」「音楽教育メソッドⅠ」はオムニバスの授業であり、外部講師や特別講師の先生方に素晴らしい授業を行っていただいている結果である。ここに深く感謝申し上げる。

「ピアノ指導法応用Ⅲ」はこれまで江口文子先生とご一緒に担当させていただいたが、今年度より林田枝実先生にも加わっていただいた。お二人の先生方のお力添えをいただき、授業の方向性や内容において益々充実しているのを毎回実感している。大変有り難く、先生方に心から感謝申し上げます。

どの授業においても、出席した学生さんたちの積極的な授業参加の姿勢があった。授業は学生と教師が共に作るものだから、学ぶ姿勢も重要だ。その点で、学生たちへも感謝申し上げたい。

「音楽教育メソッドⅠ」では「アプローチ方法の違うところや共通するところを考える機会が与えられた事が、大変有意義な授業でした。」とあった。授業目的を捉えていただき幸いだ。

2)要望への対応・改善方策

「ピアノ指導法応用Ⅲ」で、「様々な生徒さんの状況に応じて(発達障害など)、関わり方の違いについてもさらに学修できると良いと思います。」といただいた。要望に応じて、「ピアノ指導法応用Ⅳ」で取り上げ、ディスカッションした。

また同授業で「学生同士だけでなく、先生の指導を受けてみたり、見てみたかったりしてみたい」という意見もいただいた。以前は授業の一環として、附属音楽教室での実習があったが、諸般の事情により現在は行っていない。今後、新たな形での代替案を検討していければと考える。

3)今後の課題

前項に書いたように、「ピアノ指導法応用」に関しては、より充実した学修を目指して、検討を続ける。同時に普段の授業では、毎回新鮮な気持ちで臨めるように、扱う内容や方法について、私自身も研鑽を積んでいく。

一方で、卒業年次生の教育実習や就活による欠席は課題の一つだ。授業内容を補完できるよう、工夫を重ねていくが、今後も継続して配慮したいと思う。出席者数が減ったことで出席者に影響が出ないような工夫も必要と考えている。

来年度からはセメスター制導入に伴い授業運用が変わるので、全ての授業でシラバスの内容を精査して、準備する。

以 上

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード: 673 教員名: 飯田 佐恵

1) アンケート結果に対する所見

概ね良い結果を得られたことをありがたく受け止めている。特に「ピアノ指導法応用Ⅳ」は満足度 100%だった。ご一緒に授業を担当させていただいた江口文子先生と林田枝実先生に感謝申し上げる。「音楽教育メソッドⅡ／音楽教育メソッド実践ⅠⅡ」も高評価で、自由記述をたくさん書いていただいたことは今後の参考になる。「鍵盤演奏表現Ⅰ」「総合ソルフェージュ①」も同様だ。ピアノ実技に関しても高評価(満足度 100%)だったが、回答を呼びかけたにもかかわらず回答数が少なかったのが残念だった。

その中で「卒業研究」は総合的満足度が低めの結果となった。1 名の評価が低く、同時に他の設問に関しても 1 名がネガティブな回答となっていて、同一の学生かと思われる。一方で「勉強になった」「今後も研究をして演奏に活かしたい」という自由記述もあった。ご意見を参考に、今後より良い授業になるよう努めていく。「基本ソルフェージュ①／②」は、自由記述の内容から、指導・指摘の仕方についてさらに丁寧さを工夫したいと思った。

2) 要望への対応・改善方策

「卒業研究」に関しては、学生の興味に沿って研究テーマを決めてもらっているが、研究テーマとしてそぐわない内容や、執筆が難航するであろう内容については、再考してもらい最終的に決定している。研究のまとめ方(論文かプレゼンか)も、同様だ。今後はさらに授業内で対話を重ねて、実りある研究ができるよう一緒に歩んでいきたい。

3) 今後の課題

新規設問により、学生自身が学修成果を振り返ることができるのは、良いと思う。一方で以前にも書いたが、回答数を伸ばすことが一つの課題と考える。授業時間内に回答してもらうようにしているが、レッスンは回答時間を設けないためか、回答を呼びかけたにもかかわらず回答数が低くなった。

また、履修者数＝回答者数が低い授業は、1名の回答が大きい割合を占めることになる。自由記述を書いてくれている場合は今後に向けて具体的な対策を考えやすくなるので、ぜひご意見を書いてもらえれば幸いだ。

学生の多様化が進む中で、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーを踏まえながら授業を実施していくために、教員側に大きな工夫が求められていると感じている。学生の皆さんに積極的な姿勢で授業に参加することを望むと共に、普段から意見を言いやすい環境を整えていくことが大切と考える。

以 上